



第 37 号

2012年 6月 20日

発行者 車田孝夫
発行所 栃木県立大田原高等学校
紫塚同窓会
印刷所 飯村印刷所



総会	2
支部だより	4
十年会	6
母校の教壇に立って	8
母校の近況	10
どくしょ甲子園最優秀賞	10

創立百十周年 会報発行に寄せて



紫塚同窓会 会長 車田孝夫

母校創立百年の記念式典が盛大に挙行されたのは平成14年。それから、はや10年もの時が流れたかと思うと感慨も一入です。今年、創立百十周年を迎えるにあたり、学校、PTAと同窓会が連携して検討し計画してきた記念事業の大半はすでに実施済みとなりましたが、同窓会からは多大なご援助とご協力を戴きました。会員の皆様に心から感謝と御礼を申し上げます。

今秋、10月18日(木)には、創立百十周年記念式典が母校の第一体育館で挙行されます。同窓生の皆様も是非お出かけ下さい。生徒諸君や本校所縁の皆様とともに、この慶事を祝いたいと思います。式典のあとには本

校吹奏楽部の演奏や講演会をはじめ、「大高新世紀」のはじめの10年間の記録が詰まった記念誌も御手許に届く予定です。同窓会の目的は、会員相互の親睦と母校教育活動への支援です。

この記念すべき節目の年に誕生した紫塚同窓会宮城支部の今後のご活躍にも期待したいと思います。

最後になりますが、母校の益々の発展を祈念するとともに、今回も同窓会会報の発行に当たりご協力いただいた皆様に深謝し、会員の皆様にも、今後の同窓会運営・活動にたいして、変わらぬご理解とご援助を賜りますようお願い申し上げます。

ごあいさつ



学校長 寺内孝夫

車田会長さんをはじめ、紫塚同窓会会員の皆様には、日頃から本校の教育活動に對しまして、ご理解とご支援を賜り、心から感謝を申し上げます。

本年、創立百十周年を迎える大田原高等学校に着任しましたことを、大変有り難く光栄なことを思っております。

着任した日に頂戴した『大高百年誌』を折々に読みながら気付かされたのは、校訓「質素堅実」のもつ意義についてでありました。初代校長の尾河鉄太郎先生により掲げられた校訓「質素堅実」。以来歴代の校長、教職員がその精神を堅持し、大高生の教育に心血を注いでこられました。この精神は、創立以来変

わることなく受け継がれ、現在も文武両道を目標として、学力の向上を基本に、志を高く、自ら学び、自らを高め、怠惰を戒める校風となつて生き続けています。この学ぶ者としての在り方の土台となる「質素堅実」というものを、昨年の3・11以降を生きる生徒達に改めて心に刻んで欲しいものと思っております。

10月18日の創立百十周年記念式典に向けて、同窓会の皆様には何かとお世話になります。今後とも母校の更なる発展のため、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。ごあいさつといたしま



平成24年度総会

5月19日(土)紫塚同窓会総会・懇親会が、市内のホテル龍城苑で開催された。

十年会該当年次の高24回・鎌田美樹男理事の司会で会議が進められた。

車田同窓会長挨拶に続き、この春着任された寺内校長先生からご挨拶があった。

議事に先立ち、会長から栄典者、当選者のご紹介と、会則に従ってお祝い金が贈られた。佐藤秀夫氏、遠藤忠氏、高梨誠一氏、渡辺脩司氏、玉木茂氏が出席され、栄典者を代表し佐藤秀夫氏からお礼の言葉が述べられた。続いて車田会長が議長になり議事が進められた。

23年度事業報告、会計報告、24年度事業計画、予算については原案通り承認されたが、高20回池島常任理事、高20回今泉常任理事から「会費収入増の具体的な方策を考え改革しないと、同窓会そのものの存在意義がなくなるのではないか」との指摘があった。「執行部でも以前から頭を悩まされている課題であり、次回常任理事会には提案をしたい」との回答があった。

紫塚同窓会宮城支部の設立と、次年度から紫塚同窓会総会・懇親会を「6月第一土曜日に固定する」二つの重要案件も承認された。報告事項の中で、紫塚奨

学団担当の川又教諭(高37回)から、奨学団とは別であるが母校野球部監督として「昨年春の県大会優勝と、その後の支援のお礼並びに近々甲子園に出場の報告をしたい」と力強い発言があり、大きな拍手が送られた。夢を現実のものに。期待しましょう。



懇親会

総会の隣室で、総会同様鎌田理事の司会で、栄典者を囲み、盛大に開催された。(出席者78名)

特に高7回、高20回から多数ご出席を得て熱気に満ち溢れ、時間の経つのも忘れるほどであった。2年ぶりの懇親会で大高の絆を再確認しつつ出席者最長老の大高34回・中島勇平理事の万



歳三唱で閉会となった。今年も十年回該当年次、とりわけ高24回の皆さんにお世話になりました。紙面をお借りし御礼申し上げます。

叙勲者・当選者一覧

- 叙勲者
 - 西川 浄 (高7) 瑞宝小綬賞
 - 佐藤秀夫 (高7) 瑞宝双光章
 - 鈴木信男 (高11) 瑞宝单光章
 - 高梨誠一 (高11) 瑞宝小綬賞
 - 稲田貞夫 (高11) 瑞宝单光章
 - 渡辺脩司 (高12) 瑞宝双光章
- 褒章
 - 小山田昭一 (高5) 黄綬褒章
 - 玉木 茂 (高20) 黄綬褒章
- 表彰
 - 百村豊吉 (高6) 法務大臣
- 当選
 - 遠藤 忠 (高11) 矢板市長

平成23年度紫塚同窓会事業報告

- 4月19日(火) 第109回創立記念式典
(記念講演講師:高30回 溝口 勝氏)
- 4月19日(火) 監査(後藤・伊藤監事)
- 5月14日(土) 総会
- 6月1日(水) 十年会第1回準備会
- 6月20日(月) 同窓会報第36号発行
- 7月28日(木) 十年会第2回準備会
- 8月15日(月) 第58回十年会
(併中1、高3、高13、高23、高33、高43、高53回)
- 11月17日(木) 正副会長監事会
- 2月16日(木) 正副会長監事会
- 2月24日(金) 常任理事会
- 2月29日(水) 同窓会入会式(高64回、235名)

平成23年度各支部総会等報告

- 5月21日(土) 紫塚同窓会矢板支部総会
矢板イースタンホテル
- 7月5日(火) 県庁紫塚同窓会総会
ニューみくら
- 7月16日(土) 紫塚同窓東京会役員・幹事会
品川プリンスホテル
- 10月16日(日) 紫塚同窓会ゴルフ大会会長杯
千成GC
- 10月22日(土) 近畿紫塚会総会
琴しょう楼
- 11月4日(金) 紫塚同窓東京会総会
品川プリンスホテル
- 11月12日(土) 小川地区紫塚同窓会総会
幸寿司
- 3月9日(金) 宇都宮紫塚同窓会総会
ホテル丸治

平成24年度紫塚同窓会一般会計予算

1. 収入

Table with 5 columns: 項目, 本年度, 前年度, 増減, 備考. Rows include 前年度繰越, 入会金, 会費, 寄付金, 雑収入, 合計.

2. 支出

Table with 5 columns: 項目, 本年度, 前年度, 増減, 備考. Rows include 創立記念費, 総会費, 十年会費, 会議費, 通信費, 会報, 卒業褒賞補助, 母校活動補助, 慶弔費, 支部会等補助, 旅費, 事務費, 事業積立, 雑費, 予備費, 合計.

平成23年度紫塚同窓会一般会計決算報告

1. 収入

Table with 5 columns: 項目, 予算, 収入, 増減, 備考. Rows include 前年度繰越, 入会金, 会費, 寄付金, 雑収入, 合計.

2. 支出

Table with 5 columns: 項目, 予算, 支出, 残額, 備考. Rows include 創立記念費, 総会費, 十年会費, 会議費, 通信費, 会報, 卒業褒賞補助, 母校活動補助, 慶弔費, 支部会等補助, 旅費, 事務費, 基金積立, 雑費, 予備費, 合計.

平成24年度紫塚同窓会事業計画

- 4月19日(木) 第110回創立記念式典
4月19日(木) 監査
5月10日(木) 十年会第1回準備会
5月19日(土) 総会
6月20日(水) 同窓会報第37号発行
7月27日(金) 十年会第2回準備会
8月15日(水) 第59回十年会
10月18日(木) 創立110周年記念式典
1月下旬 正副会長監事会
2月下旬 常任理事会
2月28日(木) 同窓会入会式(高65回)

平成23年度紫塚同窓会特別会計(基金)決算報告

Table with 3 columns: 収入額, 支出額, 残額. Values: 21,450,598, 1,000,000, 20,450,598.

平成23年度紫塚同窓会110周年記念事業積立決算報告

Table with 3 columns: 収入額, 支出額, 残額. Values: 946,301, 0, 946,301.

平成24年度各支部総会予定

- 紫塚同窓会矢板支部総会 6月9日(土) 矢板イースタンホテル
県庁紫塚同窓会総会 6月22日(金) ニューみくら
紫塚同窓会東京役員・幹事会 7月21日(土) 品川プリンスホテル
紫塚同窓会ゴルフ大会会長杯 10月20日(土) 琵琶池ゴルフ倶楽部
近畿紫塚同窓会総会 10月27日(土) 京都タワーホテル
紫塚同窓会東京会総会 11月9日(金) 品川プリンスホテル
小川地区紫塚同窓会総会 11月10日(土)
宇都宮紫塚同窓会総会 平成25年3月予定
宮城支部総会 平成25年4月予定

常任理事会

平成24年2月24日(金) 母校会議室にて平成23年度の常任理事会が開催された。(出席者67名)
同窓会総会にかける議案の審議がなされ、事業、会計等の議案は原案どおり承認された。総会開催日について、母校の一大行事である強歩が終わった後の(来年以降)「6月の第一土曜日に固定」してはとの事務局案も承認された。校外で懇親会を是非開催して欲しいとの強い要望が提案され、懇親会開催が決定した。

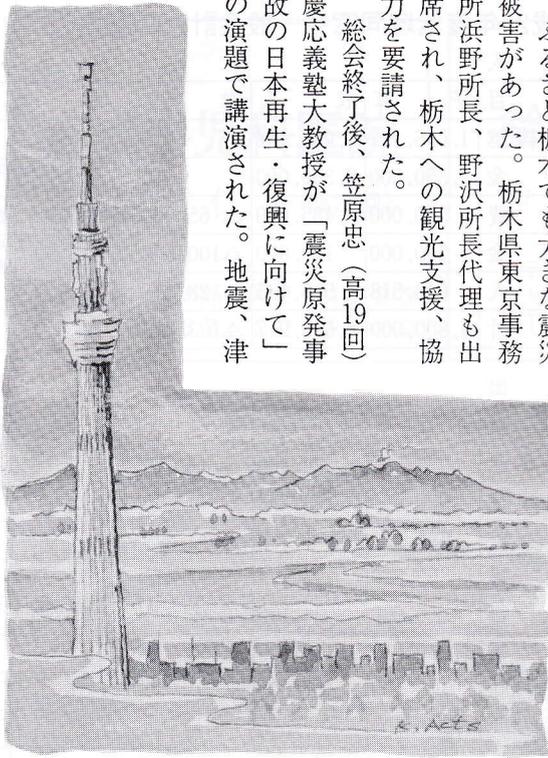
支部だより

紫塚同窓東京会

副会長 阿久津賢次(高16回)
 第59回東京会総会・懇親会
 11月4日品川プリンスホテル
 で盛大に開催された。
 地元から森島校長、増淵同窓
 会副会長、田代先生、同窓栃木
 県議の相馬・山口・斉藤各氏、
 千草会から18名を含め約百名の
 参加があった。特に恩師として
 ご出席頂いた渡辺光男先生(高
 11回)が教え子にお声をかけて
 下さり多くの若手会員が参加さ
 れ、深謝申し上げます。

ふるさと栃木でも大きな震災
 被害があった。栃木県東京事務
 所浜野所長、野沢所長代理も出
 席され、栃木への観光支援、協
 力を要請された。

総会終了後、笠原忠(高19回)
 慶応義塾大教授が「震災原発事
 故の日本再生・復興に向けて」
 の演題で講演された。地震、津



波、放射性物質などのお話は中
 身が濃く意義深かった。「異業
 種交流会」のほか、過去の支部
 行事写真も展示され花を添えた。
 懇親会の最後に全員で校歌を
 合唱。菊地健男君(高33回)の
 応援エールで締め大高健児の強
 い絆を確認し、散会となった。

役員・幹事会

今年の「箱根駅伝」で活躍し
 た的場君(氏家中出身・順天堂
 大学主将)、小堀君(烏山荒川
 中出身・神奈川大学)、斉藤君
 (黒田原中出身・東京学芸大学)
 のフレッシュな若者が招待され、

将来の話などを交え、先輩と楽
 しく懇親の時間を持てた。



ページを検索してみてください。
<http://www2.oen.ne.jp/~purple/>

近畿紫塚会

会長 八木沢武雄(高10回)
 平成23年度は何物にも例えよ
 うの無い一年だった。

近畿紫塚会を盛り上げて戴い
 たお二人、松本精二(高6) 飯
 沼悦男(高8) 先輩を亡くしま
 した。3月11日の東日本を襲っ
 た地震とそれに伴う原子力発電
 所の水素爆発があり放射能問題
 が発生。更に追い打ちをかける
 ように台風の被害が近畿地区、
 和歌山県や奈良県の山間部では
 深層崩壊という現象が発生し新
 たにダムが造られる等自然の猛
 威に曝された悲劇の年でした。

このような中でも母校の創立
 百十周年記念に発行された同窓
 会名簿を参考に近畿地区名簿の
 見直しを行い、4月9日幹事会
 を開き森重恭、渡辺真也君が新
 幹事に選任され新しい体制が発
 足しました。

近畿紫塚会・

千草会近畿支部合同総会

10月23日に、大阪北新地の琴
 そう楼「つるたん」とで開催。
 紫塚同窓会本部より車田会長、
 森島校長、田代教諭、千草会よ

り川上会長、江連次期会長、大
 田原女子高より川俣校長、東海
 林教諭を迎えて合同総会を開催
 することができました。

近畿紫塚会より16名、千草会
 近畿支部より5名、学生1名の
 総勢29名。新しく同窓会名簿に
 て呼びかけた方数人が参加され
 ました。春の選抜高校野球にて
 「21世紀枠」に残念ながら選ば
 れなかったことが最大の話題で
 あった。近畿地区に在住する我
 々にとって、甲子園球場にて母
 校を応援することが夢であった
 のですが、もう一歩及ばなかつ
 た。第64回春季県高校野球大会
 では52年振りの優勝。関東大会



に出場できたことが次の夢に続くものであって欲しい。

東日本大震災で、救援物資を強奪するようなことは全くなく行儀よく整列して受け取っていました。外国のメディアはその現象に驚嘆していたものであります。その精神は大田原高校の質素堅実と通じ合うと思います。自分さえ良ければよいという考えでは復興は覚束ないし「絆」を大切に東北魂を見せつけられた思いで一杯です。

紫塚GFクラブの大会、記念行事などのイベントに参加し伝統を噛みしめたいと思います。

県庁紫塚同窓会

世話人 内田雅之(高40回)
まずは創立百十周年を迎えましたことにつきまして、心からお慶び申し上げます。

さて、県庁紫塚同窓会は、会員相互の連絡と親睦を図ることを目的とし、県庁に在職する大高OBで構成された組織です。平成23年度は、新たに4名の新採用職員を迎えるなどして、会員数は257名となっています。

23年度の総会は、51名の出席を得て、7月5日に開催されました。この総会におきまして、

岩波定美氏(県央産業技術専門

校長)が会長に、肥塚喜弘氏(大田原土木事務所次長・現大田原県税事務所長)及び佐藤佳正氏(教育委員会教育次長)が副会長に新たに選任されました。また、議事後の懇親会には、

ご多忙中にもかかわらず、森島堅二校長先生(当時)に御出席いただき、春季栃木県高等学校野球大会優勝の快挙を始めとした母校の近況や、紫塚同窓会の最近の活動状況について御報告いただいた他、本会の顧問をお願いしている方々のうち、渡辺喜美衆議院議員(代理)、相馬憲一県議会議員、齋藤淳一郎県議会議員に御出席いただき、それぞれ御挨拶を賜りました。

さらに、懇親会は、平成3年卒業で本県及び埼玉県を中心に活躍しているお笑いコンビ「だいまじん」の「じんのすけ」様に司会をお願いしたことから、会場は終始笑いの渦に包まれ、結びには出席者全員で肩を組んで校歌を熱唱するなど、大変盛り上がりがあったものとなりました。

私たちは、県職員として、こうした職員相互の交流や、何よりも母校が教えてくれた「質素堅実」の校訓を胸に、県政の発展を目指し、今後も尽力して参りたいと考えております。

最後になりますが、母校大田

原高校のますますの御発展を祈念申し上げ、本会の近況報告とさせていただきます。

宇都宮紫塚同窓会

副会長・事務局長
笹沼 収(高9回)

去る3月9日、宇都宮市内のホテルで宇都宮紫塚同窓会総会が開催されました。当日は車田同総会長、学校からは校長先生代理として田代先生が出席されました。

改めて御礼申し上げます。当日の出席者は25名でしたが、一年ぶりの再会に話がはずみながら、ごやかに歓談する姿があちこちに見受けられました。

当会の悩みは昭和61年卒業の方が一番若く、会員の高齢化が進んでおり、若年層の会員増強が課題であります。

杜の都仙台にも『大高絆』が誕生

監事 相馬 佼(高13回)

昨年は未曾有の東日本大震災により、県民の間に絆が強まり始めた時期に、偶然にも同窓会東京会会長の大島栄寿様から、仙台にも紫塚同窓会を発足させ

て、『大高絆』を共有しては如何かとお声掛けを頂きました。

早速、同窓会名簿で宮城県在住同窓生を調べたところ、41名の大高卒業生がおられましたので、宮城支部設立趣意書を全員に郵送しましたが、1名は震災被災で避難先不明、2名は転居先不明でした。

震災直後と云う状況もあり、賛同の返信は僅か14名に止まりましたが、同窓会設立賛同者の意見を尊重して、設立に踏み切

る運びとなり、同窓会会長の車田孝夫様、副会長の大島栄寿様、教頭先生の齋藤良則様ご臨席のもと、10名の同窓生が出席して、議案の会則制定と役員選出も満場一致で承認され、宮城支部が誕生いたしました。

懇親会の自己紹介では、我々を育てて頂いた懐かしい先生方の話題も出て、和やかな雰囲気の中で会話も弾み、時間を忘れて

いるうちに、校歌斉唱で閉会となりました。

会員同士が強い『大高絆』で結ばれたと確信しております。少人数ながらも、会員増強により組織の拡大充実を図り、母校の更なる発展に貢献できるように取り組んで参りますので、ご指

導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

現時点での行事予定としては、宮城県の大学等に進学する学生の歓迎会を組み入れた定例総会を開催することを計画しています。各種親睦行事の企画も検討しておりますので、宮城県への進学生や転勤者などの情報提供をお願い申し上げます。

紫塚同窓会宮城支部
会長 永井 洋(高2回)
事務局 鈴木 哲(高26回)
監事 相馬 佼(高13回)
※連絡先
teisus@sendai-net.ac.jp

紫塚同窓会設立総会



第58回十年会

最後の十年会

高3回 青柳 實

歲月人を待たず、いつしか時は流れて、私達大高第3回・併中第1回の卒業生は十年会の最高年次学年になってしまった。思えば、私達は昭和20年4月、旧制大中に入學、戦後の学制改革を経て、大高併設中で3年、さらに新制大高で3年、実に6年間、「紫塚の学舎」にて学んだという大高史上、稀有の学年であった。

こうして、私達は県北の雄として、質素堅実、歴史と伝統を誇る大高で文武両道、勉学に勤しみ、戦後の苦難の道を切り開き、社会の各方面に大きく羽ばたいていったのである。

本年で十年会も58回を数え、私達の年次で出席した者は21名。さすが年齢相応の姿であったが、皆、往時の大高健児の面影を留めていた。

会は、車田同窓会長、森島校長の挨拶があり、私達の荒井同期会長の乾杯の音頭により始まった。話は酒問のうちに、先生方

の「渾名」、授業風景に及び楽しい談笑の時間が過ぎていった。やがて「校歌斉唱」となり、「若き生命」、「旭光あまねき」が響き渡り、思わず胸が熱くなった。次に「同期会」へと会場を移し会は更に盛り上がった。

最後に、これからの無事を願い、また会う日を期し、心残りの別れを告げたのであった。

若き日の遙か八月十五日

五回目の十年会を終えて

高13回 千保 一夫

昨年8月15日、十年会に出席した同期生は期待したよりも少なく、26名だった。商業科2クラスは毎年この時期の少し前に同窓会を開催してきており、今回もすでに予定通り実施せざるを得なかったとのことでやむを得ないと思っています。

参加した人たちは、口々に自分にとって次回の出席はまず不可能ではないかなどと弱気の話をしつつ、実はまだまだ意気軒昂でもあった。久しぶりに会う友人たちは、それぞれに人生の年齢を顔に刻み、魅力的な表情で旧交を温めることができました。特に話題は前期高齢者になってからめっきり体力が落ちたとか、前置きしながら、どこそこの山頂を踏破したとか、ゴルフの腕前を披露するなど、やはり私たちの年齢は古希直前に相応しい複雑な年代に差しかかっていることを実感しました。

少年老い易くの通り、大高の木造の校舎と校舎の間にわずかに残る芝生で昼休みに相撲をとったり、腕相撲をやったりした少

年時代は昨日のことのようだと話し合った。

私は若い人たちに対して、「君たちの特権は時間がたつぷりあることだ。」といつも言ってきた。しかし、先に亡くなった米国アップル創始者の一人であるスティーブ・ジョブズ氏は、スタンフォード大学の卒業祝賀スピーチで、「君たちの時間も限られている。あなたの心や直感に従う勇気をもってください。」というようなことを言ったそうです。

大高の後輩に範を示すべき先輩の一人として、これからは何と云うべきかを少し悩みながら、母校の栄光を祈り、後輩の活躍を見守ることにしよう。

卒業から四十年

高23回 小池 俊雄

私たちにあって今回の十年会は、4度目となります。六十歳の還暦を目前に控え、大きな節目を迎える年になりました。

仕事の面では「定年」という二文字が目前になり、感慨深いもので、今までは違った話題が中心になりました。身体を気遣う話、第二の人生

について語る者、前回とは大きく変化していることに驚きました。

場所を同級生の経営する「岡繁」に変えて、二次会を開催したところ、一次会のほぼ全員が集いました。

昔の話や今の仕事や家庭のことなど、全員が夢中で話し、大変盛り上がりました。

最後に次回の再会を約束し、お開きとなりました。

十年会があることで、同級生絆を深め、先輩、後輩と語り合う機会ができ、幹事の方々に大変感謝申し上げます。

30年目の面々

高33回 小林 伸久

我が学年、3回目の十年会であった。自分自身は初参加であったが、懐かしい顔ぶれは新鮮でもあった。恩師では平山亮二先生にお会いできた。当時と変わらぬお姿とお声で、先生自ら我々全員に酌をしてくださった。ありがとうございます。

ここに、今回参加した面々を記す。全体会（1次会）からの参加者。磯仁、伏見雅志、大久保良



久、神谷健二、菊池貞浩、菊地健男、君島孝明、桑原孝幸、小池学、小滝威、小林伸久、小林雅彦、後藤政美、佐藤俊樹、斎藤仁、関谷暢之、相馬達夫、田代誠、長谷川誠、長谷川操、真舟庄司、宮勝彦、小出浩美、斎藤達郎、和気広生、以上25名。

同期会（2次会）からの参加者。小林明德、近藤正、佐藤文晃、青龍寺弘範、関口勝、永森昌治、溝口丈、長谷川淳、田畑浩良。以上9名。総数34名であった。

2次会はKATSUTAYA別室で行った。一人ずつ近況を報告しつつ、当時に思いを馳せた。各々の半生は刺激的であり、皆頼もしく思えた。

その後、大多数の者が市内の3次会会場にバスで向かった。今回貴重なひと時を演出してくれた幹事の方々に深謝し、また、次の十年会で更に多くの仲間と再会できることを願っている。

今回は頑張ります

高43回 斉藤淳一郎
 私たち高校43回卒が紫塚の学び舎で学んだのは、昭和63年4月から平成3年3月までの3年

間である。この間、日本国内では昭和から平成に改元されたほか、ベルリンの壁崩壊や湾岸戦争の勃発など国際的にも大きな変化があった。そしてバブル経済がピークに達したのもこの頃である。

卒業してからの10年、20年は、「失われた十年」「失われた二十年」といわれる景気後退局面が続き、また価値観が多様化、複雑化する中で、私たちは、決して平坦な道を歩んでこなかったと思われる。

こうした事情は、今回の十年会参加者が、他の年次と比較して非常に少なかったことと無縁ではないと思われる。また、母校に対する愛着があっても、子育て等の日々の雑事に忙殺され、なかなか顔を出せなかったのではいかと思われる。

こうした事態を打開するためには、私たち該当年次の理事が、一層努力していかなくてはならないが、合わせて同窓会には、年次ごとに、それぞれ十年会に参加したいと思うようなインセンティブを提供してほしいと感じた。

「全てが変わらないために、全てを変えなくてはいけない」という言い回しがあるが、紫塚

同窓会がこれまでの結束を維持していくためには、新しい発想で運営に取り組んでいく必要性を痛感した。少し先の話になるが、卒業30年目にあたる次の十年会には、目に見える結果が出せるよう努力していきたい。

初めての十年会

高53回 長嶋 大輔
 月日の過ぎるのは早く、初めての十年会に参加しました。卒業して以来、会う機会がなかった旧友や恩師に会うことが出来たことに懐かしさを感じました。又、全体会の盛り上がりには感動しました。参加して頂いた方々や役員の方々に厚く御礼を申し上げます。

一方で残念だったのは我々の高53回の出席者が10名と少数であったことです。更に残念なのは出欠の回答が一割程度に過ぎなかったこと、最も残念なのは6月上旬と7月下旬に開催された準備会に参加した年次委員が14名中自分を含め2、3名であったことです。

十年会に出席した旧友からも53回の少なさに驚きの声があり、自分としても残念の一語に尽きます。

次回となる10年後の十年会は多数出席され、高53回が全体会の盛り上がりの一部として、恩師と旧友達と再会できることを願っております。

紫塚同窓東京会

会長 大島 栄 寿 (高6回)

平成24年度総会、懇親会 11月9日(金) 午後6時 品川プリンスホテル
 首都圏の一人でも気軽に参加できる楽しい懇親会、母校愛大高絆を再現！
 事務局 猪股 秀章 (高21回) 電話 03-3586-5586
 FAX 03-3583-0535
 URL <http://www2.ocn.ne.jp/~purple/>

宇都宮紫塚同窓会

会長 青木 勲 (高9回)

事務局 〒320-0833
 宇都宮市不動前1-3-14
 北関東総合警備保障(株)内
 TEL 028-639-0308
 FAX 028-638-8396

近畿紫塚会

第77回総会
 平成24年度総会は10月27日(土)
 会長 八木沢 武雄(高10回)

連絡先 〒639-1013
 奈良県大和郡山市朝日町1-54
 大和郡山アーバンコンフォート414号
 事務局 坂 和 恒 夫 (高11回)
 TEL 0743-54-1526



小林内科外科医院

小林 伸 久 (高33回)

〒324-0028
 大田原市富士見1-1606-265
 TEL 0287-23-8870

車田 医院

車田 孝 夫 (高3回卒)
 車田 宏 之 (高32回卒)

栃木県大田原市大豆田457-24
 電話 0287 (54) 0062

母校の教壇に立って

私と大高の部活

高11回卒 渡辺 光男

昭和48年から平成9年まで、国語科の教員として在籍したが、部活の面を顧みない。

那須高で、軟式庭球部の顧問

をしていた当時は、打倒大高が目標だった。恩師柿沼俊一先生率いる大高は、荒削りで、寡黙で、隙だらけだったが粘り強く、なかなか負けなかった。形勢不利になると、柿沼先生が「青年の樹」を歌い出し、「大高生ファイト」と気合いを入れる。三年目で初勝利、生徒とうれし涙を流した。以降は形勢逆転、しかし先生の気合い入れは宮々と続いていた。

日紡貝塚の大松監督の「おれについてこい」式の強烈な鍛練主義が部活にも蔓延していた頃で、実は私のテニスの師も「東の大松」と称された中條正信先生である。雪国のハンディを乗り越えて、インターハイ、国体を連覇し、実業団全日本女子の

監督もされた方である。不思議な縁で春休みの一週間、先生のお宅に止宿して理論と指導法の特訓を受けた。理論の明解さは「目から鱗」であったが、指導の厳しさは聞きしにまさるもので、参加していた実業団や大学の選手が震えるような練習であった。

10年して大高に移り、菊池昌美先生のテニス部を引き継いだ。その年の秋の新人団体戦で県のベスト四になったのはよいが、なんと春になると主力メンバー六人がごっそりとやめてしまった。理由は進学である。入学してきた津久井秀一（現大高教員）がテニスコートでひとりでローラーを曳いたのはその頃である。

大高生時代の自分は、部活もやらず、勉強も挫折したから、振り返ると苦い思い出のみに閉ざされている。日頃、生徒を進学と学習に駆り立てながら、大多数の生徒には、大高の想い出は灰色に染まるにちがいないと感じた。それまでの指導法を捨て、方針を「のびのびテニス」

に転換、学業優秀な生徒にも「生徒会長をやって東大に入れ」と言ってみたりした。部活の力は、先の津久井や佐藤良二など立派なキャプテンが育ち、また地元から基礎のしつかりした生徒が入ってくれたこともあって、大高テニス部は黄金期を迎える。関東・国体の優勝やインターハイ個人準優勝の場面など今も記憶に新しい。

インターハイ県代表の六組のうち四組をとることもあって、四組しかない予選出場枠を決める校内予選の方が県予選を勝ち抜くより厳しいこともあった。のびのびテニスのなかに熾烈な練習と競争が同居していた。これを支えたのがレギュラーになれなくてもいつも陽気にもりたててくれた仲間である。大場雅彦や原田勝彦の名前が浮かぶ。

当初は堀内肖吉校長である。初めて関東団体外出場を決めたとき、「本校のテニス部は全員で戦っているの、全員を行かせてくれ」と校長室に頼みに行った。「だめだ」とすげなく断られた。二度目はまたきたかというようにすこし笑った。恐ろしいが親父のようで近づきやすい感じがして、怒鳴りつけられること覚悟で、

また行ったら「わかった」と、全員の参加を認めてくれた。

私は「青年の樹」は歌えないが「大高生ファイト！」は言えるようになった。私が挑んで行った柿沼先生はどんな気持ちで受けてくれたのか、お聞きする機会を失ってしまった。

（元大田原高校教頭 元黒羽高校校長）

「母校の教員として」

高28回卒 齋藤 良則

平成5年4月に母校大高に赴任して20年目を迎えました。赴任当時、恩師小林惺校長（同窓会副会長）から生徒の夢を叶えて欲しいとの話があり、気持ちが高揚する反面、不安感と緊張感を覚えたことが鮮やかに蘇ってきます。今から20年前、35歳の

の中堅教員であった私にとって母校での教員生活は、期待感と緊張感の入り混じった状態で始まりました。生徒と保護者の期待に如何に答えるのか、生徒の夢の実現を如何に支援するのか等、試行錯誤と模索の日々を過ごしていました。熟慮の結果、私の果たすべき使命は、授業を

充実させることに尽きるとの結論に至りました。

私が担当するのは理科・物理です。理系においては基礎基本となる重要な科目です。また、入試においては配点の高い科目でもあります。これらのことを念頭に生徒に興味関心を喚起させるとともに意欲を高揚させ、そして、大学入試に対応できる学力育成を目指して取り組んできました。指導に当たり心がけたことは、授業を最大に活用し、

さらに、朝の学習、放課後課外、夏季課外、そして週五日制となつてから実施している土曜日補習を一体的に捉えて指導の充実に努めることでした。この間、平成12年から平成20年までの9年間、進路指導を担当しました。校長からは県内男子高校に負けるなど叱咤激励されたことを思い出します。先ず、生徒たちには大高入学の目的を確認させました。次に、目的実現のための方策として、夕方7時までの残り学習、長期休業中の登校学習、年末年始の登校学習等を奨励し、学習意識の高揚を図りました。生徒は意識意欲が高く、また、熱意溢れる先生方の指導との相乗効果によって生徒の夢

を

実現と進路実績の向上についてはあるレベルを維持・確保できたと考えています。生徒からは努力すれば夢実現の可能性が高まること、先生からは生徒は無限の可能性を秘めていることを教えられました。これは私の進路指導における信念となっております。

大高生には将来栃木県内はもちろん、日本、或いは国際社会で幅広く活躍、貢献できる人材になって欲しいと願っています。そのためには、主体的に考え、自立的に行動し、「科学技術立国日本」の基礎基盤を支えて欲しいと指導してきました。50年後の将来、日本が国際社会の中でトップリーダーであるためには未来を担う人材の育成が急務です。大高生を大きな人材として鍛えることは教員としての責務です。生徒には目先の「学力偏差値」ばかりでなく、人間として調和のとれた総合的な人格を示す「人間力偏差値」も高めて欲しいと思います。そして、強歩や寒稽古で鍛えた不屈の精神と逞しい実践力を発揮して、最後まで諦めずに夢の実現を追求して欲しいと思います。さらに、東日本大震災からの早期復興に

も貢献して欲しいと願っているところです。

(現大田原高校教頭)

初めての大高シンクロ

高37回卒 藤田 昌彦

私は平成8年度から21年度までの14年間で、母校である大高の間、特に思い出深いのは平成15年度大高祭での水泳部のシンクロナイズドスイミングです。水泳部の顧問になって間もなく、競泳もシンクロもよく分からない6月に、部員達が大高祭でシンクロをやりたいと言いだしたときは少々戸惑いました。当時、男子のシンクロは映画やテレビで放映され、注目を集めていました。内心、できるのかなと思いつつも部員達の是非、実施したいという気合に押し入れ承諾しました。しかし、生徒達は競泳の練習や日々の学習に追われ、何も準備しないまま夏休み後半になってしまいました。私は心配になり、後期課外の午後に練習時間を設定しました。ところがその最初の練習に部員のほとんどが集まっても、

部長の姿は見えませんが。部員に聞いてみると図書館で勉強しているとのこと。三年生は既に競技から引退し、受験モードになっていたのです。部長を呼んで話を聞くと実施を決めたときは乗り気だったが、今は気乗りせず、中庭の池で水着を着て踊りをする位でいいのではとの考えでした。私はその考えの甘さに驚き、何事でもやるなら本気でやろうと厳しく指導しました。その後、部長は持ち前のリーダーシップを発揮し、みんなで企画を考え、実際に実行して改善点を出し合い、僅か一週間でどうにか仕上げました。その集中力は目を見張るものでした。前日には日が暮れてもプールで最終改善を行ったり、頑張り過ぎて足がつつてしまう生徒もいたりした程です。部員全員が演技に参加するので、私は演技に合わせて音楽を流す係を務めましたが、明日は必ず観客に受けると確信し、興奮してあまり眠れませんでした。当日は観客がプールの柵によじ登り、プールの柵によじ登って見る者が出るなど黒山の人だかりとなりました。生徒が泳ぎ、踊り、水中でジャンプをする度に歓声が起こり、この「大高シ

ンクロ」は大成功でした。新聞記者も来校しており、翌日の新聞に写真と部長のインタビューが掲載されました。

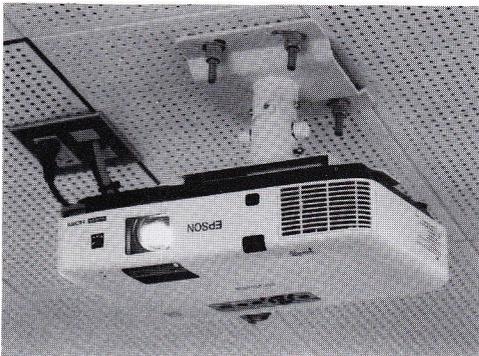
潜在能力が高く、何事でも本

百十周年記念事業

記念事業のひとつとして購入した機器

気になれば凄い能力を発揮できる生徒達と共に一つのことをやり遂げた達成感に満たされた大高祭でした。

(現鳥山高校進路指導部長)



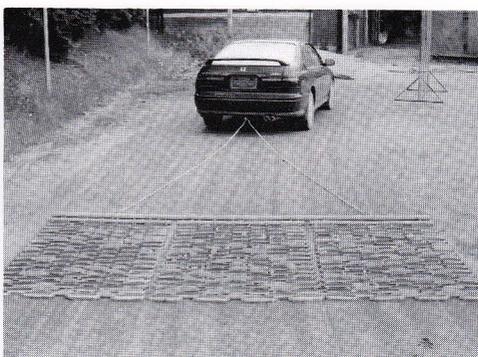
プロジェクタ



吹奏楽器



ピッチングマシン (特別会計)



グラウンド整備器

母校の近況

同窓会員の視点でまとめてみました。主に「紫塚2011」、「図書館だより」、「紫窓」、「大

世の中に事件は星の数ほどあり、その中には迷宮入りになったものも多数存在する。しかしそれは現実の世界のことであって、一般の推理小説において、答えのないものは基本的に存在しない。いわばそれらは単に、「入り組んだ論理的問題」なのである。しかし芥川龍之介のこの小説には、その基本的定理は当てはまらない。

交錯し、複雑に絡み合った線のどれが本物なのか。爆弾解体にも似た緊張感が読者を襲う。四人の証言者と三人の被疑者。証言のどれが真実でどれが嘘なのか、読者には分からない。そもそもこの中に真実はあるのだろうか、とさえ疑いを持ち始める。

この本にはスリルが溢れていて、人の心の複雑さ・不確かさ・不透明さを垣間見ることが出来る。

読む者は一人残らずしてラubeニットの渦に巻き込まれ、ポワイタニットの迷宮に取り残される。答えはない。情報だけが無造作に散乱している。

真実の有無さえ分からない藪の中、わたしたちは永久に翻弄され続ける。事件の内容ではない。「犯人が分からない」この事実が、わたしたちを駆り立てる。しかし草木を極き分けければ極き分けるほどに、私たちは容赦なく藪の中に取り込まれていく。

いったい誰が嘘をついた？

いったい何のために嘘をついた？

——誰が？ 誰が？ 誰が殺した——？

そういう混乱の極致。そこにこの本の本質がある。芥川は、藪の中から何かを伝えようとしている。それを、あなたにも知って欲しい。



藪の中 / 芥川龍之介

幾多の謎に立ち向かい、その先にある真実とは——？

「わたしはほとんど、夢うつつのうちに、夫のはなだの水千の胸へずぶりと小刀を刺し通しました。」「607」被害者の妻・真砂

「わたしはそれを手にとると、「突きおれの胸へ刺した」「607」死霊・金沢武弘

「わたしの太刀は二十三日合目に、相手の胸を貫きました。」「161」名高い盗人・多喜丸

「どくしよ甲子園」とは、朝日新聞社主催の表彰式が10月10日、東京・日比谷のプレスセンターホールであった。選考委員の姜尚中さん（政治学者、秋田喜代美さん（教育学者）、佐藤江梨子さん（女優）、道尾秀介さん（作家）から表彰状と記念の盾が手渡された。

最優秀賞の栃木県立大田原高・齋藤チーム（芥川龍之介著「藪へやぶ」の中）は、文章の力と影絵風のイラストが高く評価された。男子6人が「受賞を糧に、藪の中のように荒れ狂った社会を乗り切っていきたい」と喜びを語った。



（母校ホームページより）

高PTA会報」から引用しました。紫塚同窓会の目的の一つに「母校の教育振興に寄与する」ことがあります。母校の今を知り、ご支援を。

姜尚中さんの評

群を抜いていたのは栃木県立大田原高・齋藤チームの作品だ。「ふむ、ふむ、なるほど、そう来たか」とうならせるのは見事だ。「藪の中」に仕掛けた芥川龍之介の「謀略」にまんまとやられながらも、作品の本質に迫る読みの深さはあっぱれとしか言いようがない。果たして人間の世界に真実などと言うものがあるのか。この重たい問いを、今後も別のテーマを通じて追求して欲しい。期待したい。（朝日新聞より）

部活での活躍

どくしよ甲子園

最優秀賞

- 大田原高校 齋藤チーム
- 齋藤和人、金井瞭太、中村龍徳、磯大輔、渡辺天地（3年生）、石神大貴（2年生）

表彰式

吹奏楽部

悲願の「金賞」受賞

栃木県吹奏楽コンクール「一音入魂」感じて動く！」をモットーに日々活躍している吹奏楽部は、部活の時間は集中し、活動が終わると多くの生徒が図書館等、自主学習の教室に向かうというのが日課。そして、見事に県コンクールで金賞を獲った。部員は三冠王（3カ年皆勤、3カ年85キロ強歩完歩、3カ年寒稽古皆勤）に加え、「部活を続けて第一志望校に合格する」という目標を加えて4冠を目指し、今年も頑張っています。

（紫塚2011 P90より）

定期演奏会

第21回、合唱部と吹奏楽部合同の定期演奏会が、那須野が原ハーモニホールで開催された。メモリアルとなった昨年は震災の影響で体育館で行った。応援団の友情出演もあり盛り上がったが、ハーモニでの響きは格別。百十周年記念事業の前倒しで購入した楽器も輝き、一段と素晴らしい演奏であった。
例年、3月末の日曜日に定期演奏会を行っています。入場無料。来年は是非ご来場下さい。

山岳部

全国高校総体県予選会・団体優勝。(4年連続) 全国高校総体(青森県)に出場。

山ガールファッションの流行、漫画原作『岳』の映画化などの影響もあり、登山は最近大きなブームが訪れた。登山の素晴らしさは、活動そのものに楽しみがある。二つ目は、人との関わりができる。三つ目は、自立した人間性を確立できる。自立と言うのは、自分に責任をもて、かつ他者を思いやる余裕がある

ことだと思いと、谷口和志君は振り返っていた。(大高PTA新聞第53号から)

相撲部

県春季大会優勝。全国高校総体(青森県)出場の岸田翔太君は、インターハイに出場できるという喜びもあったものの、不安と緊張で胸がいっぱいになっ

た。相撲部は柔道部と兼務で、練習は柔道がメイン。会場の大ささと人の多さ、その上皇太子様が見にいらつしやるというので不安と緊張が何倍にも跳ね上がった。そのような中、決勝トーナメントまで勝ちあがれた。支援して下さった方々、ともに練習した仲間に感謝したいと延べていた。(大高PTA新聞大53号から)

平成23年度 特別活動部の成績

関東大会以上出場部(4月~)

Table with 5 columns: NO, 部活動名, 大会名(開催地), 種目, 開催月, 氏名. It lists various sports activities and their results across different regions.

ラグビー

全国東西対抗戦(大阪府)に東日本代表で出場。山田敬明君。3年生1人。2年生2人。1年生3人と少ない人数で毎日練習。春季、秋季の中部地区大会優勝。さらに一校では大会に出場できない合同チームにより、2名が関東選抜メンバーとして、全国大会に出場した。(紫塚2011より)

応援団

通称幹部と呼ばれる応援団部に、各クラスから招集の応援員に、



学校行事

第27回85km強歩

委員を含めて、校内では関東・全国大会に出場する部の壮行応援や、大高祭での応援。校外では高校野球スタンド応援などを行っている。昨年は野球部の春の県大会優勝では準決勝、決勝と関東大会で応援が出来、感激。緊張感ある雰囲気でした。
強歩をスタートさせた当時とはコースが大きく変わりました。親園、佐久山、長峰公園は通りません。夜食でお世話になった





ひき沼公民館、田舎ランド鴨内を経て黒磯北中で温かいうどん・そばで体を温め休息。鍋掛小学校、旧川西中学校跡地、道の駅一の郷から、保健センター、大女高の前で最後の元気を取り戻し、ゴール。途中小雨に悩まされたが、例年通り90%強が完歩した。

大高祭

例年夏休み明け、9月の第1土曜日に一般公開されています。同窓生の書・絵画・彫刻などの作品も展示されます。お出かけ

になって「大高の今」を実感しては如何でしょうか。皆さんの時代とは違った高校生活の一部が分かるでしょう。

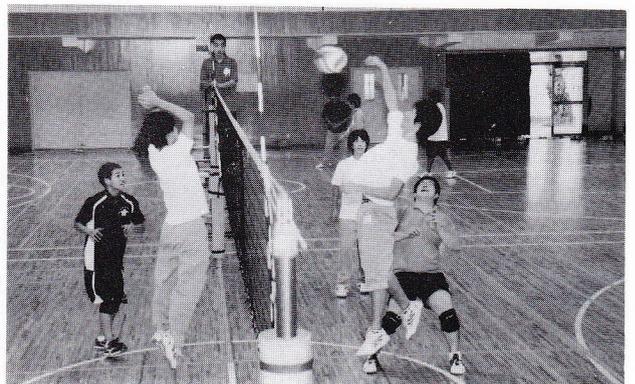


校内球技大会

平成23年10月18日に開催されました。

黒磯中、冷たいトマトが美味しかった那須野が原カントリー横も通りません。安全配慮が第一です。同窓医師団の支援は第一回から続けていただいております。道端で変わらぬご声援を送っていただいている方々に感謝申し上げます。

今年のコースは、
スタート（本校正門）、美原公園駐車場、高性寺駐車場を経て矢板市農村環境改善センターで昼食。矢板中学校、泉中学校、旧上伊佐野小学校で尚仁沢の水でつくった飲み物を飲んで元氣回復。金沢小学校から箒根中学校に18時10分着で夕食。昔と変わらぬ。



修学旅行

平成23年度は、12月1日～4日、3泊4日で「沖縄本島」を訪ねたとか。羽田から飛行機で那覇に。嘉手納基地、万座毛、南部戦跡、首里城ほかを見学。修学旅行の思い出は年次により悲喜こもごも、思い出してください。

平成23年度寒稽古

平成23年度寒稽古は平成24年度1月16日(月)～20日(金)の5日間に行われた。生徒自身



が選択した柔道、剣道、弓道、マラソンの4種目に分かれて、早朝6時から7時までの1時間寒に耐えて稽古した。今年も600名の生徒が参加した。三ヶ年皆勤者した134名(57.0%)の三年生には、賞状と各種目のトロフィーが贈られた。最終日の1月20日には校庭で納会が行われ、保護者の協力により豚汁が振る舞われた。

平成23年度卒業式

平成24年3月1日(木)、平成23年度卒業式が、本校第一体育館において厳粛な中にも盛大に挙行された。森島堅二校長より卒業生の大藏聖が代表として卒業証書を授与され、新たに235名が我が紫塚同窓会の会員として入会することとなった。

来賓祝辞の中で車田孝夫同窓会長は「大田原高校での学習を基礎として、なお一層、経験や知識を深め、社会の急激な変化に柔軟に、かつ積極的に対応しうる主体的な行動力と豊かな想像力を養い、友愛と奉仕の精神に満ち溢れ、真理と正義が実現される時代の到来を目指して活躍されることを切に願う。」と饒

の言葉を述べられた。また、在校生の新生徒会長瀬谷勇作君の「困難が待ち受けている時代ではあるがその困難に負けずに活躍してください。」との送辞の言葉をうけ、卒業生代表の磯飛周平君が大田原高校での経験を自信に替え、常に強く生き、将来、日本、そして世界を支える一員となることを誓った。

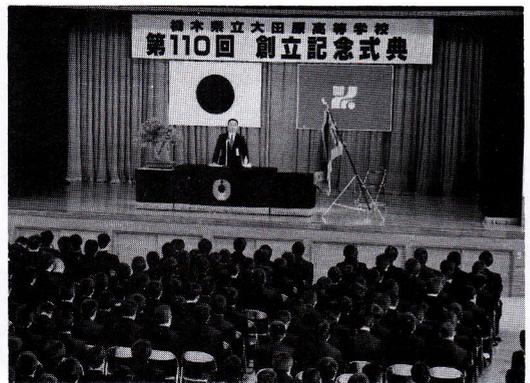
新しく大田原高校を飛び立った後輩たちの卒業を心から祝福するとともに、今後のますますの精進と活躍を期待したい。

第百十回創立記念日

平成24年4月19日(木)、本校第一体育館において、百十回目の創立記念日が行われた。寺内校長先生、車田同窓会長からあいさつを受け、厳粛な雰囲気の中で式典は終了した。

式典後は、高第38回卒業で、警視庁公安部外事第一課分析官の松丸俊彦氏の記念講演が行われた。

松丸氏は、川西中学校を卒業後大高に入学し、現役で大学に合格するも再受験をし、塾講師を経て、現在の仕事に就かれています。



一昨年に南アフリカで行われたサッカーのワールドカップでの警備の話盛り込みながらの、松丸氏のユーモアにあふれた講演に会場全体が引き込まれていた。大変有意義な講演であった。

午後には芸術鑑賞として、場所を那須野が原ハーモニーホールに移して、東京芸術座による「十二人の怒れる男たち」を鑑賞した。

アメリカでは陪審員制度が確立されて久しいが、日本では裁判員裁判が始まってまだ間もない。

一人の少年が尊属殺人で起訴され、陪審員が評決を下すあたり、十二人の陪審員のうち一人だけが有罪犯罪に待ったをか

ける。

「せめて少しでも話し合いましょう。」と言いつつ話し合いが始まるが、話し合いの過程で色々なことが分かってきて、意外な結末を迎える。

日本に導入された裁判員裁判と当たらずとも遠からずの内容に、会場全体がのめり込んでいった。陪審員の在り方だけでなく、話し合いの重要性をも説くような、興味深い内容の劇であった。

平成24年度入学式

平成24年度4月6日(金)、平成24年度第67回入学式が挙行された。今年度の入学式は、厳しい寒さが長引いた影響もあり、桜がまだ開花されない中での入学式であったが、入学許可の各担任の呼名に対する返事は、そのようなことを忘れさせる元氣溢れる清々しいものであった。

入学許可後の式辞で寺内孝夫校長先生は、新入生240名の入学を祝福するとともに、高校生活を最高のものにするために、「自らの課題を持ってほしい。」「出会いを大切にしてほしい。」「心と体を健康でいてほしい。」と3つのことについて話された。

また、平山利秋PTA会長も祝福の言葉とともに、新しい環境に飛び込んでいく新入生に心強い励ましの言葉とアドバイスを贈った。

さらに、入学者宣誓では代表の高久優君が、本校に入学し、これからの学校生活に対する抱負を力強く誓った。

入学式での新入生240名の表情はとて明るく、希望に満ちており、今後大田原高校での勉強や部活動、また強歩、寒稽古といった伝統行事を経験し、心身ともに強くなり、これからの時代を引っ張っていく人間へと成長していくことを願っている。



写真提供…ミハル写真館

平成二十三年
度
財団法人

紫塚奨学団報告

係教諭 川又勝寿

本紫塚奨学団は、大正7年、多数の同窓生から寄付された財産、1千850円を基金として創設されました。事業の内容は、奨学資金の貸与と優良生徒の顕彰であり、基本財産が生み出す利子を主な事業資金とするものです。基本財産の充実については、創設後からの篤志寄付に加えて、昭和57年度に迎えた学校創立80周年記念事業の主たる事業として取り上げられ、同窓会の熱心な協力をいただき飛躍的に増額されました。その後も同窓会をはじめ多数の同窓生からのご寄付をいただいております。

財団法人紫塚奨学団 平成23年度事業報告

1 事業の状況

(1) 奨学金の貸与

大学生 2名 一括 500,000円

(2) 奨学団賞授与

① 顕彰者

・大蔵 聖

② 3ヶ年皆勤者 73名に対して記念品を授与

2 寄付金に関する事項

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

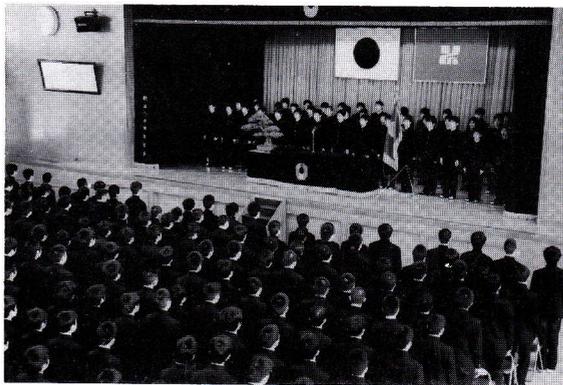
・井上成紀 (現評議員・高12回) 様	30,000円
・大林茂俊 (高21回) 様	50,000円
・篠崎勝則 (現評議員・高14回) 様	30,000円
・車田孝夫 (現理事・高3回) 様	30,000円
・増淵忠行 (現評議員・高16回) 様	11,840円
・平成23年度卒業生	235,000円
・森島堅二 (前理事長・前校長) 様	100,000円
合計	486,040円

郵便局振替口座番号
0035014111356
口座名 財団法人紫塚奨学団

平成14年度からは、寄付金と返還金を貸与金に直接活用することにより新規採用者を2名、貸与月額を3万円といたしました。しかしながら、財団の運営について再度の見直しを行った結果、次のような方針で運営していくことになりました。

① 寄付金を基本財産に繰り入れる。

② 平成20年度から当面の間は、新規採用者2名に対して、入学時に一括して50万円を貸与する。同窓生の皆様には、従来より奨学団へのご支援をいただいておりますが、今後ともなお一層のご理解とご支援をいただければ幸いです。



平成23年度および過去4年間の大学合格状況

()内は過年度卒の内数

国公立大	23年	22年	21年	20年	19年	私立大	23年	22年	21年	20年	19年
東京	1 (1)	0	0	1	0	早稲田	11 (2)	16 (2)	11	9 (2)	18 (2)
京都	0	1 (1)	1	1 (1)	1	慶應義塾	2	8 (5)	4	4 (1)	5 (1)
東京工業	1 (1)	1	2	0	1	上智	1	4	4 (1)	1	2
一橋	0	1	0	3	1	国際基督教	0	1	0	0	0
大阪	0	1 (1)	0	1	1	学習院	1	1	1	0	2
名古屋	2	1	0	1	3	明治	20 (4)	27 (3)	21 (1)	21 (1)	31 (2)
東北	10 (1)	12 (2)	9	12	12 (1)	法政	13 (2)	27 (3)	7 (1)	17	17 (1)
北海道	4 (2)	4	2	3	2	立教	6 (1)	8 (1)	4	4	1
九州	1 (1)	0	0	0	0	中央	19 (1)	18 (2)	14 (1)	23 (3)	28
東京外国語	0	1	0	0	0	青山学院	6	15	6	12	13
筑波	2	2	1	2	6 (1)	東京理科	22 (2)	16 (2)	26	17	29 (2)
千葉	5	4	4	6	14	立命館	4	13 (1)	10	7	10 (1)
埼玉	9	8	7 (1)	8	6	芝浦工業	11	14 (1)	16	12 (1)	14
新潟	10	9	6	7 (1)	1	日本	34 (2)	49 (5)	56 (4)	45 (1)	39
金沢	0	0	1	4	1	専修	7	13 (1)	14 (1)	13	6
横浜国立	3	3	0	1	1	東洋	13 (2)	16 (1)	19 (1)	19	4
東京学芸	3 (1)	4 (1)	1 (1)	5	4	駒沢	11 (1)	5	6	6	4
東京農工	2	6	3	4	2	東海	16 (2)	13	17	16	2
電気通信	2	3	1	1	1	神奈川	23 (2)	14 (1)	6	11	20
静岡	3	4	1	1	9	成蹊	2	5 (1)	9 (1)	2	7 (1)
山形	7 (1)	6 (1)	3 (1)	3	7	東京農業	8	3	4	4	6
茨城	12 (1)	8	5 (1)	8	5	国際医療福祉	25	12 (1)	12 (1)	17	18 (1)
宇都宮	25	10 (2)	15 (1)	17 (1)	14	獨協医科	1	2	0	1	1
首都大東京	2	2	3	1	7 (1)	自治医科	0	0	1	0	0
現役前期合格者	90(含AO)	89	83	101	116	現役私立大計	360	363	348	352	379
現役国公立合格者	114	109	108	122	136	MARCH以上の合格者	105	154	108	115	156

平成25年度同窓会総会・懇親会

平成25年度から、総会の日時を6月第一土曜日に固定化しました。

- 日時；平成25年6月1日(土)15:00～懇親会；16:00～18:00
- 会場；大田原市内式場

- ・ 詳しいご案内は、紫塚同窓会本部ホームページでご案内致します。
- ・ 各年次の常任理事にも、事前連絡いたします。



お客様の大切な時間を演出します

KATSUTAYA

勝田屋記念会館

〒324-0062
大田原市中田原2082-3
TEL 0287-23-4165 FAX 23-4188
http://www.katsutaya.com



私たちの技術を地域へ、未来へ。

株式会社 猪股建設

〒324-0206 栃木県大田原市中野内 2126
TEL.0287-59-0114 FAX.0287-37-5515

TOTAL HOUSING リフォーム・設計・施工 齋藤ハウジング

〒329-2712 栃木県那須塩原市下永田 1-1009
TEL.0287-39-6626 FAX.0287-38-1644

代表取締役 猪股弘樹 (高46回)

医療法人社団 亮仁会 那須中央病院

理事長 臼井 亮平 (中38回)

〒324-0036 栃木県大田原市下石上1453番地
TEL 0287-29-2121 FAX 0287-29-2501
E-mail:nasuchuoh@mtg.biglobe.ne.jp



セレモニーホール あぶらや

有限会社 油屋商店

吉川 恵造 (高7回)
吉川 秀之 (高34回)

〒324-0051 栃木県大田原市山の手1丁目1番22号
(本店) TEL 0287-22-2219 FAX 0287-23-7863
(ホール) TEL 0287-24-2411 FAX 0287-24-2412



O. A. P. E.

ISO-9001・ISO-14001 認証取得

総合設備業

大橋総設工業株式会社

代表取締役 大橋 保 (高29回)
取締役会長 大橋 照男 (中43回)

〒324-0057 栃木県大田原市住吉町2丁目4番24号
TEL:0287-23-3100代 FAX:0287-23-3102

「上杉文化と本場米沢牛」

小野川温泉/ホテルの里 小野川温泉

登府屋旅館

代表取締役社長 遠藤 章作 (高16回)
(旧名 高梨)

〒993-0076 山形県米沢市小野川町2493
TEL 0238-32-2611 メール tofuya@tofuya.jp
FAX 0238-32-2613 URL www.tofuya.jp



鈴の宿

検索

医療法人 大田原厚生会 室井病院

理事長 室井 尚武
院長 室井 秀太 (高44回)
副院長 室井 宏文 (高48回)
理事 室井 宏文 (高48回)

〒324-0042 栃木県大田原市末広1丁目2番5号
TEL 0287-23-6622
FAX 0287-23-7825

宗教法人 大田山光真寺

住職 黒田 俊雄 (中40回)
副住職 黒田 泰弘 (高35回)

〒324-0051 栃木県大田原市山の手2-11-14
TEL (0287) 22-2033

情報システムのパイオニア

株式会社 テコウ産業

代表取締役 秋間 忍 (高16回)



〒325-0033 栃木県那須塩原市埼玉371-8
TEL 0287-62-6010
FAX 0287-62-8998
E-mail:techno@tecowl.co.jp
http://www.tecowl.co.jp

(株)田中建築事務所

一級建築士 日本建築家協会会員
阿久津 賢次 (高16回)

本社
〒108-0074 東京都港区高輪2-16-45 高輪中山ビル
TEL 03-5420-2431 FAX 03-5420-2461

三九会

(さんきゅうかい) (高16回)
2007年1月発足以来、東京と大田原を中心に親睦会を開催。

藤田宏和 電話 0287-29-0902
岡本之良 電話 048-442-4364



株式会社 関商事

代表取締役 関 幸一 (高22回)

〒329-2763
栃木県那須塩原市井口532-7
TEL 0287-36-8181 FAX 0287-36-4141

中国料理 応竜

田代 誠一 (高18回)
田代 尚之 (高47回)

大田原市城山2-2-12 (消防署近く)
☎0287-22-2801 (代) FAX 23-8383

寿司・幕の内・割烹仕出し
有限会社 **まえむろ**

代表取締役 渡辺 繁治 (高19回)
TEL 0287 (22) 6849



(株)奈良スポーツ

代表取締役 奈良 靖久 (高12回)

大田原市紫塚2-2609-97
TEL 0287-22-2670
http://www.narasp.com

司法書士法人片柳事務所

簡裁訴訟代理人 第206005号
宇都宮地方裁判所 民事調停員
大田原簡易裁判所 民事調停員
宇都宮地方裁判所 司法委員
大田原簡易裁判所 司法委員

代表社員 片柳 洋 (高22回)
司法書士 伊藤 憲司 (高39回)

〒329-2711
栃木県那須塩原市石林224番地6
(大田原西那須野街道一本松ぼっほ通り沿)
TEL 0287-37-5500 FAX 0287-36-8672



医療法人 博友会
院長 原 裕 (高20回)

〒324-0042
大田原市末広1丁目5番27号
(大田原市農協ヨコ)
TEL 0287 (24) 0011

カンタン・キレイ・色あせない
FUJICOLORデジカメプリント
写真のことなら何でも、
当店におまかせください。

カメラの山口

山口 紀之 (高36回)

大田原市山の手1-7-1
TEL 0287-23-4166

劇急 石山

〒325-0056
那須塩原市本町5-5
TEL 0287-62-0128
FAX 0287-62-1076

季節の上生菓子 伏見屋菓子店

伏見 功一 (商1回)
伏見 雅志 (商30回)

TEL 0287-23-2438
FAX 0287-24-2438

有限会社 高松自動車販売

代表取締役 高松 勝 (高22回)

〒324-0018
大田原市上奥沢85-5
TEL 0287-23-3818

(有)ナルミヤスポーツ

成宮 正人 (高44回)

大田原市中央2丁目16番地15号
TEL (0287) 23-6668
FAX (0287) 23-6437

すきやき・しゃぶしゃぶ・とんかつ

岡 繁

大小宴会承ります (料理3,000より)

岡野 繁雄 (高23回)

大田原市山の手1-3-9
TEL 0287-22-2474
FAX 0287-22-2718



院長 井上 成紀 (高12回)
副院長 井上 直紀 (高43回)

〒324-0051 大田原市山の手1-2-11
☎ 0287-22-2514

各種印刷 飯村印刷

飯村 忠雄 (中42回)
飯村 通 (高28回)

TEL 0287-22-2016 (代)
FAX 0287-23-4055

社会保険労務士法人
ソウマ・高根事務所
社会保険労務士
相馬 誠一 (商3回)
〒101-0063
東京都千代田区神田淡路町1-11
中野ビル5階 TEL03-3251-5141

有限会社
扇屋建設
代表取締役 **君島建二** (高20回)
〒329-2921
栃木県那須塩原市塩原1450-3
TEL 0287-32-3504
FAX 0287-32-3165


吉岡食品工業株式会社
乾燥唐辛子・塩漬唐辛子・葉唐辛子佃煮 製造
代表取締役 **吉岡博美** (高20回)
本社 〒324-0051 栃木県大田原市山の手2-16-10
TEL 0287-23-5555/FAX 0287-23-5557

大田原温泉  **大田原温泉**
ホテル **龍城苑** 日帰り温泉 **大湯の湯**
代表取締役 **大金幸仁** (29回)
〒324-0062
栃木県大田原市中田原593-3
TEL 0287-24-2525
FAX 0287-24-3737
<http://www.ohtawara-onsen.com/>

総合物流のエキスパート
 **株式会社 ジェイパック**
取締役本部長 **今泉 薫** (高20回)
〒210-0869
川崎市川崎区東扇島18-2 (東扇島A棟倉庫)
TEL:044-271-1101 FAX:044-246-1103


久島労務管理事務所
社会保険労務士 **久島 正** (高20回)
行政書士
〒329-2754
栃木県那須塩原市西大和3-41
電話 0287-36-9911(代)
FAX 0287-36-8550

 株式会社
マキ厨房設備
代表取締役 **楨 徳和** (高24回)
本社 〒324-0051
大田原市山の手2-3-13
TEL 0287-22-2486(代)
FAX 0287-23-7653

おいしいと心から喜んでいただける麺を造る続けます
 株式会社 **大西製麺**
専務取締役 **大西広明** (高27回)
〒324-0242
栃木県大田原市大豆田266-2
TEL 0287-54-0373
<http://www.onix-jpn.com>

確かな情報伝達企業として
 **株式会社 エーエム企画**
—— 新聞・広告・保険 ——
栃木県大田原市黒羽向町409
TEL.0287-54-0126 FAX.0287-54-0714
黒羽・佐久山・大金新聞販売センター

塩原大綱
湯守田中屋
〒329-2921 栃木県那須塩原市塩原6
TEL 0287-32-3232 FAX 0287-32-2989
<http://www.tnky.jp>

タイル工事・石工事・リフォーム工事
 **ハシモ株式会社**
代表取締役社長 **橋本 徹** (高32回)
益子 範明 (高32回) 荒牧 量 (高32回)
山崎 洋 (高33回) 橋本 悟 (高41回)
渡辺 毅 (高45回)
本社/大田原市南金丸2000 TEL 0287-24/0010(代)
東京営業所/北区赤羽台 東北営業所/仙台市泉区
<http://www.hasimo.co.jp>


井上眼科医院
井上 順 (高44回)
聖マリアンナ医大眼科
〒324-0051 大田原市山の手1-2-11
☎ 0287-22-2514


井上眼科医院
井上 亮 (高49回)
順天堂大練馬病院眼科
〒324-0051 大田原市山の手1-2-11
☎ 0287-22-2514

吉成小児科医院

医師 吉成 仁見 (高22回)

〒324-0055

栃木県大田原市新富町2-1-22

電話 (0287) 22-2412

鈴木歯科医院

鈴木 和 雄 (中39回)

〒324-0241

大田原市黒羽向町74

TEL 0287-54-0700

医療法人 金澤 医院

理事長 金澤 正 邦 (高15回)

事務長 金澤 政 史 (高47回)

〒325-0052

栃木県那須塩原市中央町1-8

TEL 0287(62)0029

FAX 0287(64)2590

猪股司法書士事務所 司法書士 猪 股 秀 章 (高21回)

紫塚同窓東京会事務局長

〒106-0041

東京都港区麻布台3丁目1番5号 電話 03-3583-8657

日ノ樹ビル401号

FAX 03-3583-0583

建築家からの提案「人と環境にやさしい建物」 有限会社 和 泉 設 計

代表取締役 和 泉 卓 哉 (高22回)

〒329-2703 栃木県那須塩原市槻沢322番地9

TEL 0287-37-4871

FAX 0287-37-4872

http://www.izumi-architects.com/

安心、安全、美味



登録販売元 肉の金澤

那須野ポーク 代表取締役 金澤 駿 一
(商標登録5176626号) (高11回)

〒325-0052 那須塩原市中央町本店 TEL 0287(63)4129

FAX 0287(63)8161

弥生町支店 TEL 0287(63)5673

http://www.nikunokanazawa.com

那須の美酒 池島酒造株式会社

代表取締役
池 嶋 英 哲 (高20回)
池 嶋 佑 介 (高52回)

〒324-0036
大田原市下石上1227
TEL 0287(29)0011

題字 長嶋 石 城 (高8回)

ALSOX ホームセキュリティα 北関東総合警備保障

代表取締役社長 青 木 勲 (高9回)

本社：宇都宮市不動前1-3-14

TEL：028-639-0301

介護用品のレンタル・販売

(株) まつ や 薬 局

松本 寿広 (高20回) 松本 隆史 (高48回)

■処方せん調剤 クスリのご相談、介護のご相談お気軽にどうぞ

■介護用品全般 ☎ (0287) 22-2502(代)
保険調剤薬局

大田原市城山1丁目5-31 FAX兼 (0287) 23-5040

NASU

株式会社 NASU設計

代表取締役 一級建築士 篠 崎 勝 則 (高14回)

本社 〒324-0005

栃木県大田原市練貫364番地67

TEL. 0287-23-7861

FAX. 0287-23-7819

E-mail nasuarc@gaea.ocn.ne.jp

郷土の発展と共に、一世紀 since 1884

総合建設業 那須土木株式会社

那須土木株式会社一級建築士事務所

本社/栃木県大田原市中央1丁目13番10号

TEL 0287(23)5678代 FAX 0287(23)0355

URL http://www.nasudokk.co.jp

代表取締役 玉 木 茂 (高20回)

取締役総務部長 宇 山 洋 一 (高19回)

総務課長 桑 名 久 (高37回)

総務課主任 郡 司 康 雄 (高45回)

住宅事業部住宅建築課長代理 矢 吹 博 司 (高46回)

建築部建築課 玉 木 勇 介 (高52回)

きれいな写真は、

ミハル写真館

〒324-0051
大田原市山の手2-6-33
TEL0287(22) 2566
(消防署前)

藤田山円光寺

住職 神島 仁誓 (高24回)
〒329-2755
那須塩原市西原町4-5
TEL 0287-36-0476
FAX 0287-36-2965

鎌田浅香医院

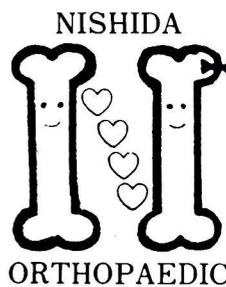
鎌田 美樹雄 (高24回)
〒324-0043
大田原市浅香3-3-9
TEL 0287-22-2703

住んでよし心ゆたかな 大田原

||||| D I グループ |||||

(有)藤田材木店 株式会社大一不動産

栃木県大田原市美原3丁目3266-1 栃木県大田原市紫塚1丁目14-13
TEL 0287(22) 2617 TEL 0287(22) 5119
代表取締役 藤田 昭彦 (高26回) 代表取締役 小坂橋 博 幸



西田整形外科医院

整形外科・リハビリテーション科
整形外科専門医
院長 西田 三郎 (高30回)
大田原女子高校そば
〒324-0053
栃木県大田原市元町1丁目9-18
TEL 0287-20-3100

各種自動車販売・民間車検・石油類販売

(有)小浦モータース

小浦 道夫 (高27回)
小浦 敏夫 (高31回)

本社 大田原市佐久山2208番地
佐久山SS TEL 0287(28) 0016
美取SS TEL 0287(28) 0480
車検センター TEL 0287(36) 5338

エクソンモービル有限会社
代理店

(有)浅井 礦油

代表取締役 浅井 元
(高29回)

〒324-0057
栃木県大田原市住吉町1-14-20
TEL 0287(23) 3366(代)

十善山雲照寺

住職 草野 知明 (高20回)
副住職 草野 光丘 (高49回)

那須塩原市三区町659番地
TEL 36-0824
FAX 36-3753

日本整形外科学会専門医
医療法人 阿久津整形外科

(リウマチ科・
リハビリテーション科)

院長 阿久津 政司 (高37回)

〒329-2727
栃木県那須塩原市永田町3-16
(西那須野駅前)
TEL 0287(36) 3639(代)

北関東36不動尊霊場第24番札所
下野観音霊場第9番札所

真言宗智山派 龍頭山不動員龍泉寺

住職 植木 盛雄 (高36回)

大田原市山の手2-9-2
TEL (0287) 22-2978
FAX (0287) 24-2371

セイワ薬局

星 和明 (高30回)

〒324-0042
大田原市末広2-8-27
TEL 0287(22) 2628

吉成 歯科 医院

吉成 慶司 (高23回)

〒324-0234 大田原市前田145
TEL 0287-54-2600

ExxonMobil エクソンモービル代理店

(有)吉田屋商店

代表取締役 森 英夫 (高30回)

那須塩原市西栄町1-8 本社 36-0013 ICSS 36-4661
電話 (西那須野) 0287 国道SS 36-0817 BPSS 36-1493

創立110周年記念事業

本年大高は創立110周年を迎えました。創立は明治35(1902)年、ちょうど日英同盟締結の年でした。爾来2002年には創立100周年、そして本年2012年が創立110周年であります。

創立記念日の4月19日には、母校体育館において例年どおりの創立記念式典を行いました。来る10月18日(木)には創立110周年記念式典を行う手筈となっております。すでに実施済みの事業も含めて、記念事業・記念行事等についてご紹介します。

1 記念事業

吹奏楽部の楽器購入、教室へのプロジェクターとスクリーン設置、野球グラウンド整備機器購入を行いました。

一昨年11月に同窓会名簿を発行致しました。現在110周年記念誌を作製中です。

2 創立110周年記念式典

実施日時：平成24年10月18日(木)10:00～
会場：大高第一体育館
内容：式辞、祝辞、関係者表彰

3 創立110周年記念行事

実施日時：平成24年10月18日(木)13:00～
会場：那須野が原ハーモニーホール
内容：吹奏楽部演奏会

講演会……講師はさだまさし氏
詳細は、後日同窓会のホームページ等で紹介する予定です。

事業執行の財源ですが、100周年の時のように、趣意書等を準備しての広範な募金活動は行わず、100周年時の残金、同窓会予算中の110周年基金積立金、在校生PTAからの負担金、並びに特別寄付金等をもってあてることになりました。在校生には5月14日付で文書を配布し、6月に3,500円の『創立110周年記念事業費の保護者負担金』として納入していただくことになっています。

※ 同窓生各位のご協力なしには事業を遂行していくことはできません。なにとぞ皆様方の物心両面のご協力をお願いします。

第59回 十年会のお知らせ

- ・日時 平成24年8月15日(水) 15:00開始
- ・場所 結婚式場 KATSUTAYA
(大田原市中田原2082-3 TEL0287-23-4165)
- ・該当年次 併中2・高4、高14、高24、高34、高44、高54

※前回から該当年次以外でも参加を受け付けることになりました。

十年会該当年次以外で参加希望者は、平成24年7月末日までに紫塚同窓会事務局まで、お申し込みください。

Fax 申し込みのみ受け付けます。Fax 0287-23-9691
(卒業年度、氏名、住所、電話番号)を必ず記入して下さい。

会費、5,000円は当日会場にご持参下さい。

第11回紫塚GFクラブゴルフコンペ参加者募集

- ◇開催日 平成24年10月20日(土)
- ◇開催場所 琵琶池ゴルフ倶楽部 大田原市藤沢91-4
- ◇募集人員 20組、80人
- ◇競技方法 18ホール

ベリア方式での団体競技及び個人競技

◇参加費 3,000円(賞品及びパーティー費)

◇プレー費 10,000円(昼食付)
キャディ付 3,000円増し

◇表彰 団体競技の部、個人競技の部に優勝カップあり。
参加賞、その他沢山賞品を用意しています。

◇参加申込、問い合わせ先 紫塚GFクラブ事務局
大田原市財務部長 田村正幸(高24回)
TEL 0287-23-8797

紫塚同窓会 ホームページ

- ・紫塚同窓会本部のホームページをご覧ください。
URL <http://www.muradou.sakura.ne.jp>
- ・お問い合わせ、ご意見などは下記までお寄せ下さい。
e-mail: daiko@muradou.sakura.ne.jp
機能重視、シンプルなHPを心がけています。
(広報委員会・HP小委員会)

編集後記

半世紀ほど前、学生時代に歯車設計を学んだことがあった。インポリリュート歯車とかサイクロイド歯車、ラックとピニオンといった言葉を思い出す。同窓会に關つて数年がたった。この半年、自身の歯車がうまくかみ合っていないな、と悩んだ。そのような中、会報発行の期日だけどもどんどん迫ってきた。今日も飯村印刷所さんには大変ご迷惑をおかけしてしまつた。百周年だから、百周年のよううにカラー版にするか迷つたが、紙質を良くする程度に留めた。昨年は野球部が52年ぶりに春の県大会を制した直後だったから、その特集記事を扱つた。今回は地道に活躍する母校の姿を、同窓生の視点からまとめてみた。それと、それぞれの大高時代を思い出したいと3先生に執筆をお願いした。3先生の文章を讀んで大高卒で良かった、短気を起さず良かったと感じた。もう一度、大声で「青年の樹」を歌いたい心境である。今回も多くの方々に広告のご協力をいただき、深謝致します。会報発行費用の約60%は広告代でまかなわれました。また、ご多忙のところご執筆いただきました皆様にも、心から御礼申し上げます。ホームページは高32回小川亨常任理事にお世話になっております。皆様、今後ともよろしくご協力をお願いします。

広報担当(高16回) 増測忠行